

# 安心して暮らせるまちづくりを 行政と一緒に

昨年11月から12月にかけて、県内8市の首長にご出席いただき、生協組合員と行政との懇談会が開催されました。(長門市は1月19日、柳井市1月27日、山口市1月28日、宇部市2月17日開催予定。)

この懇談会は25年目となり、暮らしをよくするためのテーマを、首長と住民(生協組合員)が話し合い、お互いの理解をすすめながら、行政との協同活動や、住民の声を反映させた住みよい街づくりにつながることを目指しています。

## 岩国

テーマ  
「新型コロナウイルス対応について」  
「いきいきとした暮らしを応援するまちづくりについて」

ドライブスルー形式のPCR検査の実施やいわくに特別応援協力金の給付、岩国市プレミアム商品券の発行による地域経済応援など、このコロナ禍で市が講じられた対策についてお聞きしました。一方でイベントや会合が無いことから、一人暮らしの高齢者の方などが孤立しやすくなるため、生協の配達を活かした声掛けはとてありがたいとお話もありました。

まちづくりについては、岩国市買い物弱者支援事業補助金制度の対象事業者となった移動店舗について意見を交換。これからも人と人のつながりを大切にしていいため、市と連携して事業や活動を進めていきたいとお伝えしました。



▲福田良彦 岩国市長(前列左から3人目)と。(11/10)

## 山陽小野田

テーマ  
「新しい生活様式での暮らしについて」  
「ごみ収集の現状について」

新しい生活様式がすすめられる中、高齢者の方には、会える立場の方からの声掛けが一番安心できるので、組合員同士の声掛けに期待されているとのこと。また、家に籠ることによる二次健康被害予防や、オンライン授業の導入準備など、新しい生活様式に向けた取り組みを教えていただきました。

また、ステイホーム推奨期間中の家庭ごみは例年の2倍増。SDGsの観点からも、物を買うときからゴミを出さないことも意識しなくてはと痛感しました。中にはルールから外れた捨て方のゴミ



▲藤田剛二 山陽小野田市長(前列左から3人目)と。(11/11)

もあり、収集員の怪我にもつながるため、ゴミの分別等のルールなど今回お聞きしたことは地域で配布するニュースにも活用したいと考えています。

## 下松

テーマ  
「安心安全なまちづくり」

「市民にとっての安心安全とは何かを考えていきたい」と市長からご挨拶いただき、『くだまつ防災メール』や防災ラジオなどの普及啓発、要配慮者対応、新しいハザードマップの活用など、今後の計画についてお伺いしました。生協からは防災学習の取り組みや、組合員が実際に用意している防災リュックや備蓄食を紹介するなど、市民としての思いもお伝えすることができました。

災害時の協力体制を再確認でき、防災だけでなく交通安全、消費生活の安全など安心安全なまちづくりを様々な面から一緒に取り組んでいきたいと感じました。



▲国井益雄 下松市長(前列右から2人目)と。(11/27)

## 美祿

テーマ  
「行政と生協が連携するまちづくり」

市のまちづくりについて、「福祉・子育て支援には地域住民の互助・共助が必須であり、人と人のつながりが大切」という話を伺いました。「とにかく市民の声を聞きたい」とおっしゃる市長へ、生協を通して市民の声を届け、「住み続けられる美祿市」の実現の一端を担うことができたと感じました。今後、生協の事業や活動の拠点が生協内に新設できれば、地域住民が安心して集える居場所としての期待もふくらみます。

また、ゴミ収集の新しいルール周知に時間がかかって苦労されている様子をお聞きし、美祿市の組合員組織率が高いことを活かして、組合員へのニュースでお知らせしたり、リサイクルセンターの見学企画等を検討していきたいです。



▲藤田洋司 美祿市長(右から3人目)と。(12/16)